

学園だより

Vol.77

2005.7
Nara Women's
University



おみなえし (中川忠章前学生生活課長)

シリーズ 情報と人間を考える	1
附属学校部の発足と附属学校園と大学との連携の推進	
水上戴子	
教養広場 Liberal arts Forum	3
からだを見つめて	
成瀬九美	
いくつかの数学書について	
森藤紳哉	
寄稿 私のチャレンジ	5
半澤玲奈・近藤寛子・森澤寿里	
卒業生からの寄稿	8
失敗も成功も自分の財産に……………	植田淳子
血液型性格判断……………	高田直子
佐保会だより	10
副学長着任あいさつ	11
清水哲郎	
こんな本を出しました	12
池原健二	
新・再任部局長紹介・新任教員紹介	12
学生生活案内	14
後期授業料免除について	
生活環境学部新入生合宿研修	
学生相談室から	
平成17年度就職活動支援行事の日程	

附属学校部の発足と

附属学校園と大学との連携の推進

水上 戴子

生活環境学部 教授 附属学校部長
生活健康学 衣環境学科 生活健康学専攻
 TAIKO
MIZUKAMI

附属学校部は二〇〇四年四月に発足した。私はその初代部長に就任し、この一年余りを手探り状態で過ごしてきたが、この間、附属学校園（幼稚園、小学校、中等教育学校）に関する情報は学内ではまだ十分とはいえず、周知されていないように感じられたので、この紙面を借りてお伝えしたいと思う。



附属学校園には奈良女子大学と同様に長い伝統と歴史がある。本学の前身である奈良女子高等師範学校は一九〇八年に設置された。一九一一年には附属小学校と附属高等女学校（附属中等教育学校の前身）が開校され、翌一九一二年に附属幼稚園が保育を開始した。その後、一九四九年に奈良女子大学が発足し、一九五二年に奈良女子高等師範学校が廃止された時、奈良女子大学の文学部内に教育学科を設置することにより、附属学校園は文学部に附属することとなった。それ以来、文学部に附属学校運営委員会が置かれ、附属学校園長には文学部教授が就任することになった。そして二〇〇四年四月に大学が国立大学法人に移行すると同時に、大学と一層連携した教育、研究活動を推進していくために大学全体の附属として改

組されることになり、文学部附属から大学附属となったのである。そのため附属学校部が新設され、附属学校園の運営は全学組織となった。そして中等教育学校と小学校に、それぞれ生活環境学部と理学部教授が歴代校長として初めて就任した。さらに、全学の各局部からの代表による附属学校運営委員会において、附属学校園の様々な事柄について全学的な見地から審議、推進する体制が整えられた。この体制により、各附属学校園相互の理解と協力関係が高まっている。

一方、二〇〇三年十二月には、奈良女子大学教育システム研究開発センターが設置され、「本学と附属学校園が連携して行う教育研究活動を推進するとともに、初等教育から高等教育までの教育システムを研究・開発し、本学の教育・研究に資すること」を目的とし、大学と附属学校園との教育研究の連携に中心的役割を担っている。

大学との連携としては、附属学校園はこれまで教育実習、参観の受け入れ、附属の教諭による教職科目担当などを通して、教員養成への貢献が極めて大きかった。さらに、文学部を中心とした関連学問領域の研究フィールドとしても大学の研究・教育に多大な貢献をしてきた。また、二〇〇二年から中等教育学校と大学との間でスタートしたアカデミックガイダン

ス（AG）は、本学の教員が講師となっており、本校三・四年の生徒に学問の面白さを伝え、学問への興味・関心を呼び起こし将来の進路選択を考えるきっかけを与える講座である。AGは小学校においても少しずつ実施が重ねられている。その他、大学と附属学校園が連携した様々な取組みについては、本学教員に多大な協力を得て次第にその効果が目に見えるようになってきている。



ところで、附属学校園の所在は大学構内ではなく、幼稚園と小学校は近鉄学園前駅から約五分、道路を隔てて隣接している。中等教育学校は市内循環幸町バス停のすぐ傍に在る。次に、各附属学校園の基本方針や取組みについてご紹介したい。

幼稚園では、三歳児から五歳児までの三年保育四クラス九十六名と四歳児、五歳児の二年保育二クラス六十四名で、男女の総定員は二六〇名である。基本方針は「「好きな遊び」を中心に幼児の主体性・個性を重視する教育を進める。また、小学校と連携しつつ、幼稚園で培われる学びや育ちを明らかにすると共に、幼児教育のモデルとなるような先進的な実践を推進する。」である。



学習研究発表会
(附属小学校1年生)

小学校には一学年二学級ずつ全体で十二学級あり、男女の総定員は四八〇名である。基本方針は、「学習法」の伝統を生かした「じごと」「けいこ」「なかよし」による教育実践を通じ、子どもの学習生活



みんなで作った亀に
小さい組の友達をのせて遊ぶ
(附属幼稚園)



アカデミックガイダンスによる授業
(附属中等教育学校)

の充実を図る。また、それらの実践に関する研究成果を広く社会に発信することを通じて、初等教育の改善に指導的役割を果たす。”である。本校ではユニークな学習研究発表会が毎年実施され、全国から大勢の参加者が集まるが、幼稚園との連携を図りつつ共同の学習研究発表会も実施されている。
中等教育学校では、生徒数は一学年三クラス二二〇名で、男女の総定員は七二〇名である。基本方針は、「六年一貫教育を推進し、二―二―二制に基づく中等教育の新たな発展と創造を目指し、全国の中高一貫教育をリードする。また、「自由・自主・自立」をめざす個性尊重の教育を進め、自己探求能力にすぐれ市民的素養を備えた生徒の育成に努める。”である。二〇〇二年から文部科学省より六年一貫

教育研究開発校に指定され、二〇〇四年度には、第四回全国中高一貫教育研究大会が本校で開催された。さらに、二〇〇五年度から科学技術振興機構よりスーパーサイエンスハイスクール(SSHS)研究開発校に指定され、自己学習力のある自然科学に強い生徒を育成するカリキュラムを研究開発すると共に、意欲のある生徒に大学教員や研究者等による先進的な内容の講義を受講させ、生徒の意欲を伸ばす取組が進められる。

附属学校園についての詳しい情報は、奈良女子大学のホームページをご覧ください。どうか、附属学校園に足を運んでいただきたい。今後更に大学と附属学校園との連携が双方にとって望ましい方向に進むよう、皆様のご指導とご鞭撻をお願いして附属学校園の紹介とする。

からだを見つめて

成瀬 九美

文学部 助教授
人間行動科学科 スポーツ科学講座KUMI
NARUSE

合てゆく感覚をおぼえます。

美容やファッションを扱う若い女性向けの雑誌では、ピンポイントな視線が他者のからだや顔の特定の箇所(例えば、二の腕や毛穴?)に注がれているようですね。このような記事をながめていると、リアリティのあるからだへの意識が次第に希薄になりつつあるのではないかと感じます。動きを見つめることは「ミニミニーション」の始まりです。他者のからだをまるごと見つめ、その人を「なぞり」ながら動くことで、人と人が相互に関わり合うことの充実感をひととき味わってもらいたいと思っております。

〈参考文献〉

尼ヶ崎彬 (二〇〇三) なぞりと
なぞりえ、山田奨治(編)、
模倣と創造のダイナミクス、勉
誠出版

Decety et al.(1997) Brain activity during observation of actions: Influence of action content and subject's strategy, Brain, 120, 1763-1777

日本の伝統的な芸道の教授場面には、師匠や先輩の動きを繰り返し見て真似ることで上手を目指す学習法があります。その教授過程は易しいものから難しいものへと段階的に進むと工夫も、むしろ完成形としての示範の中に見るべき箇所を自ら見出して、試行錯誤しながら新しい技や動きを習得するやり方です。また、ただひたすらに動きを模倣することは、単に外から見た形だけではなく、示範者の身体内部で起こっていることを真似ること、とも言われています。つまり、他者の身体を見る行為と自分が遂行する行為を繰り返すことにより、息づかいや気持ちまでも「なぞる」ことが求められているの吧。

他者の動きを見るとき、脳内にどのような反応が生じているのでしょうか。Decetyらは、ボトルをあげる、釘をうつなど、のマイム動作や観察者が知らない他民族のサイン言語を観察者に見せて、脳内血流量の変化をポジトロン断層法(positron emission tomography)で調べました。動作の認識が要求された場合は側頭葉の海馬傍回が活性化しました。側頭葉はsemantic(意味的な)情報を処理する領域で、特に、海馬は記憶と関連すると言われています。私たちは他者の動きに自分の記憶を重ねながら、他者の動きの中に「何をやっているのか」という意味を見出してい

ると言えます。また、動作の模倣が要求された場合は運動の企画に関連する中頭回や前補足運動野が活性化し、このことから、他者の動きを自分の行動と結びつけて見ていることがわかります。近年、他者の動作に視覚的に反応するミラーニューロンの存在が明らかになりました。これは、他人の運動を観察したときと、自分で同様の運動を行うときの両方において活動する。一人二役のユニークなニューロンで、この働きの面白さは医学のみならず他の領域においても注目されています。伝統的な芸道の特徴的な学習方法の意義について、科学的裏づけが得られるかもしれません。

いくつかの 数学書について

森藤 紳哉

理学部 助教
数学科 現象解析学講座



SHINYA
MORITOH

全学共通科目の一つである「数学の楽しみ」では、理学部数学科の担当でオムバス形式の講義が提供されている。近年、他の機会にも様々の人々に対して数学に纏わる講義がなされることも多くなってきた。私はそのような際、専門科目を講義するときの苦心と別種の苦心を味わう。まずは何を話すか、そんな苦心から始まる。ここでは、題材選びの際に出会った数学書の中から幾つかを紹介することとしたい。

志賀浩二著「数の誕生」岩波書店。「数学が生まれる物語」の副題がつけられた全六冊からなる書物である。一冊目(第一週目)では、「小さな数から大きな数まで」「自然数」「倍数と約数」「分数」「小数」「分数と小数」「ピタゴラスの定理をめぐって」(以上七項目で一週間の目次のもと、数のもつ様々の姿が示されている。非常にゆつたりした流れに沿って、二冊目(第二週目)の「数直線」の話に向かって数の世界が展開されていく。第二週目の「数

直線」の話では有理数(整数の比で表される数)の隙間を埋める数としての実数が登場する。実数論は数学科の学生が解析学のまず初めに遭遇する高い壁となつて立ちほだかるのが通例となつてはいる。よのだが、このシリーズではゆつたりと二週間かけてその壁を自然に越えられるように工夫されている。一週目の内容に戻るが、例えば「倍数と約数」の中では次のような問題が考えられている。二〇円と十五円の商品が景品としておかれているとき、交換券を一枚五円分としておくと3枚集めれば十五円の景品が、四枚集めれば二〇円の景品がもらえる。交換券の額面を高くしたほうが色々の手数が少なくなる。高額の商品を集めるときは、直ぐには交換券の額面が分かるという訳にはいかない。どのようにしたらよいだろうか(ユークリッドの互除法)。また、分数 $1/3$ を線分の十等分による目盛表示の中でどのように認識すればよいだろうかという話題が「分数と小数」の中で論

ぜられている。「読者へのメッセージ」では、「数学を育てる母胎は私たちの中にあり、私たちは私たちの中にある数学の種子とすべきものから大切に数学を育てていることに気がつく」という話がなされている。実践を通じて数学的展開が緊張感をもって描かれている本シリーズには私も深く感銘を受けた。志賀先生にはこの他にも数多くの著作があり素晴らしい「数の大航海」対数の誕生と広がり、日本評論社)。

土基善文著「 X の X 乗のはなし」日本評論社。2の2乗は4だが、0の0乗は何だろうか。そもそもどうやって考えれば良いのだろうか。複素数、指数関数、微分、コーシーの積分定理、リーマン面といった話題が実に興味深く展開される。(コーシー、リーマンは十九世紀数学の多岐に亘って偉大な数学者たちである。)

M・ケッヒャー著、長岡昇男訳「数論的古典解析」シュプリンガー・フェアラーク東京。「初等解析学の真珠」なる章では階乗(例えば5の階乗とは $5 \times 4 \times 3 \times 2 \times 1$ のこと)の拡張としてのガンマ関数の取り扱いやベルヌーイ多項式、ポアソンの和公式などの話題が提供されている。

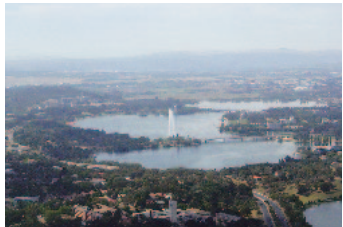
アンバフランスな形の文章・紹介になつてしまふ恐縮である。



よく学び、よく遊んだ半年間

半澤 玲奈
文学部 人間行動科学科
教育文化情報学専攻 四回生

私は、これまでに母校の国際交流プロジェクトへの参加やイギリス留学を通して、自分とは違った文化や価値観を持つ同世代の人達と交流し、「教育」や「文化」に対する興味や関心を高めてきました。そして、去年の二月から七月まで交換留学生としてオーストラリア・キャンベラ大学で多文化教育について学ぶ機会を得ました。



キャンベラの景色

首都キャンベラには国会議事堂があり、各国の大使館や領事館が点在しています。奈良市の姉妹都市であるキャンベラ市は、とても自然が豊かでのんびりとしていて、どこことなく奈良に似た雰囲気があります。寮の外ではカンガルーが跳びまわり、夕暮れは広い空が茜色に染まり、夜空には南十字星がキラリと輝いていました。キャンベラ大学のキャンパスは広々としていて、施設も充実していました。新入生や寮生のためのオリエンテーションに参加し、留学生生活を気持ちよくスタートさせることができました。授業が始まり、レ

ポートや発表といった課題が次々と出されたときには正直焦りを感じました。けれども持ち前の集中力と負けん気の強さでとことん課題に取り組みました。大学には経験豊富な先生方が学生の学習をサポートするプログラムがあり、私はこのプログラムを最大限に活用しました。エッセイの書き方やノートの取り方、プレゼンテーションの仕方など様々な内容のワークショップがあり、個人的に課題を見てもらうこともできました。

ファームステイ先で留学生+ホストファミリー先と



オーストラリアの多文化教育に関する講義のトピックは、ジエンダー、エスニシティ、多文化主義、アイデンティティ、白豪主義、先住民の文化など興味深い内容でした。チュートリアルでは自分自身のアイデンティティについてポスターを使って発表し、さらにグループに分かれてそれぞれのアイデンティティの共通点や相違点についてパネルディスカッションを行い、民族・文化の多様性をあらためて認識することができました。留学中は自ら積極的に行動し、学内外



RENA HANZAWA

で多くの人に会いました。ジャパンプラブというサークルに入り、日本語を教えたり、日本食パーティーを企画したりして現地の学生達との交流を深めました。また、ロータリークラブが主催するファームステイに参加し、キャンベラとはまた違った環境で生活を体験することができました。寮の仲間とパーティーをしたり、スポーツ大会に参加したりして楽しい時間を過ごし、休みを利用してシドニーやメルボルンに旅行し、オーストラリアを満喫することができました。豊かな環境のなかで多くの人と知り合い、よく学びよく遊んだオーストラリアでの半年間は私にとって忘れられないものになりました。留学できたことを本当に感謝しています。

寮の前にいたカンガルーの親子

Challenge

「誰にも負けない」 志が可能性を無限に広げる

近藤 寛子

理学部 情報科学科
四回生

「すくく(性格が)変わったよね。」

学芸員実習を終えた際に、友人から言われた言葉である。私自身、少し意識はしていたけれどもハッとした瞬間であった。

それまでの私は、明確な目標も持たないまま、ただ何となく、大学とバイト先と家の往復をしていた。楽しいけれど、どこか物足りない……そんな日々の繰り返しであった。そのような生活から抜け出したいと思い、去年の夏、カンボジアとベトナムへ一人旅に出掛けた。しかし、初めての海外旅行である上に、現地の言葉(「クメール語、ベトナム語」)は全く分からない状況で、恐怖感からホテルに引きこもることもあった。しかし、私は、何をしにここまでやって来たのかと思ひ直し、思い切っ

て外出するようになってからは本当に楽しい日々が変わった。ベトナムでは、幸運にも現地の人と仲良くなる事ができた。旅行代理店等に勤めるベトナム人4人と飲食店巡りなどにも出掛けた。その際に、彼女たちは「日本の学生は、どうして働かないのか。」としきりに問い掛けてきた。ベトナムでは、学生たちは学費を自分で稼ぐか、それが無理なら進学を諦めるといふ。私には耳の痛い質問であった。この三年間、両親からの仕送りを当たり前のごとだと思っていた。しかし、私は彼女たちに答えられるほど、この学生生活

でどれだけの有効な時間を過ごしてきたのだろうか……。

帰国後、私は大学時代に一つでも他の人とは違った他の人には負けない取り組みをすることを決意した。

それが、「奈良市美術館」での学芸員実習であった。テキストを買って、講義を受けて、来館者を観察して……というルーチンワークに近い受け身の実習を行っている美術館が多い中で、私の実習先はテキストもなければ、その日にやるべきことなど全く決まっていない所であった。美術館に詳しい実習生が多い中で、知識が全くない私は、当初戸惑ってしまっただけ。しかし、「分からないなら、分からないなりにやってみる。」という学芸員さんの助言により、美術館内だけではなく、館外でもアンケート調査を行うなど、今の自分から出来ることは何かを常に考えながら行動することができた。その調査結果を基に様々な企画を提案させて頂き、既に実現化したものから、今後、実現化に向けて動き出す予定のものもある。実習終了後の現在も「奈良市ミュージアムサポーター」とい

HIROKO
KONDO



う、美術館と市民の皆さんを繋ぐ立場として、美術館のプロデュースに携わらせて頂いている。その中には、一年後を視野に入れたプロジェクトもあり、本当に私自身重要なポジションとして公の施設と関われることに幸せを感じている。私はこのチャンスを生かして、「知識不足なら、それを補うだけの行動と思考を行え」と自らを奮い立たせ、さらに飛躍していきたいと考えている。

●●●●●
最後になりましたが、学芸員実習の機会を提供して頂きました加須屋教員、奈良市美術館の川口学芸員にこの場を借りてお礼申し上げます。

学芸員実習生が製作に協力した奈良市美術館の新しいパンフレット「美術館からのプロポーズ」。新聞にも掲載。

Challenge

「世界」を知って深まる楽しさ くオリエンテーリング海外遠征を通して

森澤 寿里

生活環境学部 人間環境学科
生活文化学専攻 四回生

じりじりと肌を焼く太陽と立ち込める草の匂い、感動と興奮と今までに感じたことのない腹の底から何かが湧き上がってくる…。

赤、赤、赤。スイスの国旗で真っ赤に染まった会場が沸いた。ガランガランとつるさいほどにカウルが鳴り響く。大観衆の中を走り抜けてゴールに向かうのは、開催国スイスチームのアンカー、世界の女王シモーネ。世界トップの走りをまざまざと見せ付けられた。欧州が記録的な猛暑に見まわれた二〇〇三年八月。私はスイスでのオリエンテーリング世界選手権大会(WOC)観戦と併設大会参加のため、その後チエコの世界大会参加のためにクラブの友人と二人、計三週間の海外遠征を行った。学生の今しかこんなチャンスはない、と遠征を決めたのは五月のこと。オリエンテーリングを始めて一年足らずではあったが、この競技の持つ面白さが少しずつ見えてきていた時だった。

スイスでのオリエンテーリングは、自分を大きく向上させた。周りの選手たちの走りが非常に参考になり、六日間連続でのレースで心身共に鍛えられたからだ。暑くて、しんどかったが、それでもすごく楽しいものだった。

レースの合間の日に世界選手権本戦を見る。大型ワイドビジョンが会場に設置され、レース中のエリート選手たちが途中

のチェックポイントを通過する映像が映し出される。そして、ゴール自国の選手を応援する人たちの熱気がむんむんして、感動と興奮が波のように押し寄せてきた。

帰国してから、友人と二人馬鹿のようにオリエンをするようになった。ほぼ毎週山に行く。自分がほとんどん伸びることが楽しくて仕方なかった。

二〇〇四年九月、私は再び世界選手権参加のため、スウェーデンを訪れた。北欧はオリエンテーリング発祥の地であり、競技人口も多い強豪国だ。スイスの感動が忘れられなかったこと、北欧独特の地形に挑戦してみたいという理由からだった。

スウェーデンは本当に素晴らしい土地で、とても過ごしやすい、町全体がWOCを応援していることが印象的であった。レースの方は、日本とは全く違う山に苦戦の連続だったが、それはそれで楽しく、毎日少しずつ上達するのが分かった。WOC本戦も、スイス以上の感動を与えてくれた。二度の海外遠征から、私が得た物は数え切れない。トレーニングが辛くてもお金がなくとも、それでも毎週山に行ってしまうのは、これらの遠征から得た、オリエンが楽しいという気持ちからであると思う。

JURI MORISAWA



WOC閉会式後、スウェーデンの森と大型エキシビジョンをバックに

また遠征中に多くの人との出会いがあったこと、様々な文化を肌で感じる事が出来たことは、特に大きな収穫であった。

二〇〇五年八月、アジア初の世界選手権が愛知で開催される。オリエンテーリングが全世界に普及するための、大きな役割をこの大会は担っている。私も、競技者として、そして運営ボランティアとして参加する予定だ。また大きな感動を得て、自分自身大きく成長できることを願っている。

Challenges

失敗も成功も自分の財産に

植田 淳子

人間文化研究科 博士前期課程
国際社会文化学専攻 平成十五年履修了
NPO法人 安心院町グリーンツーリズム研究会JUNKO
UEDA

九州の北部、大分県のとある農村。「安心院」町(四月より宇佐市安心院町)と書いて「あじむ」とよむ人口約八〇〇〇人の農村地帯。全国で唯一地名に「心」が入るその町では、農村に滞在しながら町内外の人々と様々な交流を行う「グリーンツーリズム活動」がさかんである。私はその町で去年の夏から「NPO法人 安心院町グリーンツーリズム研究会」の専属事務局員(なんと、たった一人だから事務局長!)として採用された。

安心院出身でもない私が「グリーンツーリズム」という仕事に携わるようになったきっかけは、大学時代にさかのぼる。大学に入り自炊する中で、スーパーで並んでいる食べ物の「その先」を知らない自分に愕然とした。毎日、口にするお米や野

菜はどうやってできるのか。この興味・関心がそのまま大学での研究テーマとなり、都市農村交流活動の研究へと広がった。大学院に入ってからには、研究と趣味とを兼ねてグリーンツーリズムがさかんな安心院へ通った。地元でもなく大学からも遠かったので、「なぜ?」と聞かれることが多かったが、HPで見た安心院の人々の笑顔が忘れられず、フェリーと五〇〇のパイクで安心院を訪れた。その私が、今、多くの仲間と共に「グリーンツーリズム」という農村の新しい可能性のために奮闘中である。

安心院のグリーンツーリズム研究会は、一九九六年に農業者や地域住民が、都市との交流を通じて農業を守り育て農村が元気になることを目指してはじめられた活動であり、今年で十年目を迎えた。現在の活動としては、普通の民家に宿泊し、暮らしを体験する「農村民泊(農泊)」、田植えから稲刈り、餅つきと一年をかけてお米を育てて味わう「マイ米(マイ)物語」、地域ごとに異なる「藁こずみ」の美しさやユニークさを競って楽しむ「全国藁こずみ大会」などがある。これらの活動を通じて、年齢や育った環境、考え方が全く違う人々と出会えることが、当研究会の大きな魅力となっている。

また、今年度から新たに「短期コース」

と「長期コース」からなる「大分・安心院グリーンツーリズム実践大学」がはじまった。「短期コース」は、一泊二日でさまざまな講演会、農泊や農業体験を行うコースで、年六回開催され、部分参加も可能である。また「長期コース」は、数ヶ月間安心院に滞在しながら、農泊家庭にて料理やおもてなしの仕方を学ぶ。その他様々な農作物を種から育て、栽培管理し、料理やその保存法までの一連の流れも学んでいく。現在、両コースともに参加者を募集中なので、興味をもたれたらぜひHPをご覧ください。

最後に後輩の皆さんにお伝えしたいことがある。私自身を振り返ると、大学時代からの経験が、時に無鉄砲だと言われることもあった。だが、その経験が今のやりがいのある仕事につながってきたように思う。今から考えると、実際に自ら行って、見て、話して、触れて、感じたことが、失敗も成功も含めて自分の財産になっている。そうして経験したことや出会った人々に導かれて次の道が開けてきた。未だ発展途上の私だが、みなさんには失敗することをためらわずにぜひ勇気をもって自ら飛び出して行って欲しいと願う。

安心院町グリーンツーリズム研究会HP

<http://www3.coara.or.jp/~ajimv/>



血液型性格判断

高田 直子

生活環境学部 生活環境学科
 アパレル科学専攻 平成十二年卒業
 コニヤタイム株式会社 開発本部



NAOKO
TAKADA

「O型でしょ？絶対O型！」

知り合って数ヶ月すれば、どこかでこの場面がやってくる。嬉しいことなのか悲しいことなのか、私は血液型を当てられなかったことがない。八割以上の人が勝ち誇ったようにO型と判定してくれる。

親の願い通り「素直な子」として育てた為か、皆が言うように私はO型である。一度くらい「A型？」とか不安そうに聞かれてみたいものである。私が血液型に興味を持ったのは猫をかぶって演出していた社会人ライフで「O型でしょ？」と言われるたその時からだった。

血液型とは赤血球の表面の抗原によって決まり、血清学的方法で多くの型に分けることができる。「一九〇〇年、オーストリアのラインシュタイナーが人の血清に



O型仲間

他の人の赤血球を混合させると、凝集する場合としない場合があり血液に型があることを発見した。この発見により、輸血不適合が激減し、今日の輸血技術を大幅に向上させたといえる。ABO血液型はご存知のとおり、A型・B型・O型・AB型が存在する。A型にはA抗原、B型にはB抗原があり、O型は抗原なし、AB型は両方の抗原を持っている。抗原の有無が血液型なのである。現在も心理学等で血液型性格判断の信憑性について研究されているが、データの代表性と結果の効果妥当性の面から、一般的に血液型により性格判断はできないとしている。しかしながら私たちは血液型を性格から判断しようとするのはなぜだろう？

最近、血液型による性格判断を題材にした番組を何度かみたことがある。血液型による園児の行動の共通点から性格判断する実験をしていた。まさにその実験結果は私を含めた皆が血液型の推測材料となるイメージそのものである。

例)園児に水槽から水を空の水槽に移す実験である。

A型グループは杓子を使ってお水がな

くなるまでひたすら移動する。一方、B型グループは水槽の水を杓子で移動し始めるが、途中でやめ、それぞれ遊びに戻ってしまう。O型グループは最初、杓子でお水を移動させているが、ある程度入れたら水槽ごと傾けてこぼしながら移す。AB型グループは最初、杓子でお水を移動させているが、誰かがひらめきお水の入った水槽と空の水槽の場所を入れ替えてしまう。ここから一般的にいう「A型は几帳面・B型はマイペース・O型は大らか・AB型は天才肌」が示唆される。

私たちはこの実験結果に基づいて血液型あてをしているわけではない。どこかで血液型特性を聞き、自分でグループ分けをし、その共通点から納得していつているのである。当然だが、はずれることもある。それでも、血液型性格判断のイメージは年々変わらないのである。

我が社に限らず、社会にでると自己分析をする機会が常々ある。なかなか自分を知らうとすることは難しい。自己分析での他人のアドバイスを得心することもなかなか難しい。四分の一であり、不確かなものではあるが、自分を知るいいスタートかも知れません。

佐保会だより

佐保の流れと春爛漫によせて

去る四月十日、母校を訪れ、ちょうど満開の桜の向こうに「佐保会館」を眺めました。会館は七七年の風雪に耐え、しかも風格を備えて桜に映えています。私はこの景色を講堂の緞帳と重ね合わせて見ていました。

皆さんは講堂の緞帳「爛漫」を見たことがあるでしょうか。大先輩小倉遊亀先生による、若草山や東大寺を背景にした桜の古木に満開の花が描かれています。小倉先生は「桜が満開の力を出して咲いているということは、桜の木は大変な力があるのだと思います。いさぎよく花は散ります。しかし花の生んだ実が生き生きと生きます。この絵は、実になる前に必死の力を出して爛漫と美しい姿を見せているところなんです。」と言われ、当時の学長後藤和夫先生は感謝の言葉として次のように述べておられます。「私が強く感じておりますのは、小倉先生と佐保会の皆さんからお贈りいただいたのは、単なる設備や物としての緞帳ではない(略)いわばこの緞帳は、先輩の皆さんからの、大学への愛情と若い世代に対する期待のメッセージとして、あのステージに掲げられているのであります。」(いずれも「佐保会報」第二八号より)

私は昨年の三月に奈良女子大学を定年で退職しました。母校二八年間の教員生活はあつという間に過ぎましたが、今大学

の外から母校と学生の皆さんのことを想いながら桜花を見ていると、この緞帳に込められた小倉先生や佐保会員の心からの寄贈の想いが私にもこみ上げてくるのを感じます。

五十歳を過ぎた頃から、春や夏の休暇時に卒業生達がしばしば母校を訪れるようになります。少し余裕や疲れ(?)が出ると、人は青春を精いつばい生きた場所を思い出し、友と連れ立ってもう一度生き直すのでしよう。「ここで○○したよね」「あれも昔のままね」と声が弾みます。母校はそのまま母の懐の温かさで迎え、包んでくれるようです。

私は今男女共学の私立大学に勤めています。専門の学生がークラス八十人もいます。互いの気持も考えも分かり合える二十人ほどの講義、余計な気遣いも術いも要らない女性だけの思いっきりの学園生活がどれほど貴重で充実しているかを改めて感じています。失敗も恥をかくことも学生時代の特権と思つて、存分に自分の花を満開させてください。桜花のあとにはまもなく小さな実がつくでしょう。皆さんも卒業の頃にはしっかりと実をつけていることと思えます。その実が雨や風に耐えて成長して行けるよう、佐保会もみなさんへの応援や支援をしたいと思えます。

佐保会員は今二七〇〇人ほどです。小さな大学ですから創立百周年を目前にしても卒業生は少ないといえます。でも、佐保会館の裏の佐保川が万葉の頃から絶えることな

く流れ続けているように、佐保会も母校の傍らをずっと流れつづけています。

女性が自立して生きるにはまだまだ多くの壁があるでしょう。どうぞ佐保会館にも気軽に足を運んで先輩たちの声を聞いてみてください。

(文責 平井タカネ)



佐保会館を望む(平井撮す)

時代は学生志向

清水 哲郎

奈良女子大学 副学長
(企画・研究担当)



TEITSURO
SHIMIZU

このたび、図らずも重定前副学長の後を受け企画・研究担当の副学長に就任いたしました。法人化後二年目を迎へ、本学はテイクオフから飛躍の年に入つていきますが、小規模大学ゆえに固有の難問も多く、それらを何とかこなしていきたいと思っておりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

ところで、マーケティング理念に「消費者志向」という極めて重要な言葉があります。これは企業の全経営活動の本源は消費者にあるということで、常に消費者の方に目を向けて行動するという、今日ではごく当たり前の考え方であります。この理念は、近年多くの大学で見られる「学生志向」や「学生満足度」の最大化を図るといふ考え方と合い通ずるものがあり、京大総長ですら法人化後の職員を対象とした就任挨拶で、「京都大学で最も重要なのは学生であります」と言わしめるほど大学経営にとって重要なテーマになっていきます。本学の久米学長も、法人化後最初の年頭挨拶で、学生ニーズや学生の視点からという言葉を使われた事が、理系出身の学長だっただけに、今でもとても印象に残っ

ています。もちろん、大学の第一義的使命は教育・研究にあり、また、大学は営利を追究するところでないことはいまでもありません。しかし、近年、電通などへの広告宣伝のための出稿量の動きをみても私立大学を中心に著しく増加しており、非営利組織が実施するソーシャル・マーケティングと呼ばれる事例の代表的なものになっていきます。

周知のように、ソーシャル・マーケティングには「非営利組織が実施するマーケティング活動」と「企業の社会責任・社会貢献を遂行する社会志向のマーケティング」という二つの流れがありますが、特に、後者の「社会志向」とすでに述べた「学生志向」は、大学経営にとつては基礎石ともいふべき重要なものであり、このような理念は法人化後、これまでより一層高度化・個性化・多様化を図らねばならない大学にとつては常に念頭にに入れておくべき重要な視点であると思つています。

さて現実を振り返ってみますと、企画・研究担当の私に課せられた所掌範囲は極めて広く、ざっと上げてみただけでも評価関係、社会連携(産学官連携、地

域貢献など)、国際交流、企画広報など、さらに細分化すれば限がないほど多岐にわたつています。いずれの領域にも重要な問題が山積しています。

例えば、評価関係では、大学が第三者機関による認証評価を受ける事が法的に義務化され、それに向けて効率的な評価システムの構築を進めることが緊急の課題になっています。産学官連携では、何を本学の柱とすべきか、その方向性を明確に示す必要があります。また、学生参加型連携事業も立ち上げたいと思つています。国際交流では、平成十七年度に立ち上がった国際交流センターの目に見える形での活動を示さねばなりません。企画広報では、本学からいかに社会に対して有用かつ興味ある情報を発信するか、そのシステムを検討する必要があります。その一環として、話題性のある奈良女グッズを増やしていくことやロゴマークの商標登録の検討なども現在進行中です。

いずれにしろ先見性・創造性・獨創性、そして何よりも若さを持った皆さん方のアイデア、行動力が大学を変えていく力になるかもしれません。

新・再任部局長紹介

①所属学部等・職名 ②所属学科等・専攻分野



SEISHI NOGUCHI
野口 誠之

①理学部:教授 理学部長
②物理科学科 高エネルギー物理学

講堂の緞帳の図柄「爛漫」は、本学の卒業生で文化勲章受章者でもある小倉遊亀画伯が、後輩達にと描いて下さったものです。古木に咲いた満開の桜の花に象徴されるように、今年も新入生を迎えて、大学が明るく活気づいています。新入生の皆さん、今の気持ちを大切に、大学生活を送って下さい。

私も、皆さんに倣い、「初心忘るべからず」をモットーに、理学部長としての職責を果たしたいと思っています。



KUNIKAZU UENO
上野 邦一

①生活環境学部:教授 生活環境学部長
②人間環境学科生活文化学専攻
日本建築史・東南アジア建築史

21世紀のキーワードは、女性・環境・情報だと考えています。女性が社会で活動することが広がるだろう、地球環境の良好さを維持することが必要、情報が行き交いグローバル化する、というイメージです。大学はこうした社会創造の拠点となるでしょう。

大学では自ら学ぶことが基本です。皆さんが、問題意識をしっかりと持ち、分析する能力を得て、社会で活躍することを期待します。そうした人間を育てていきたいと思っています。



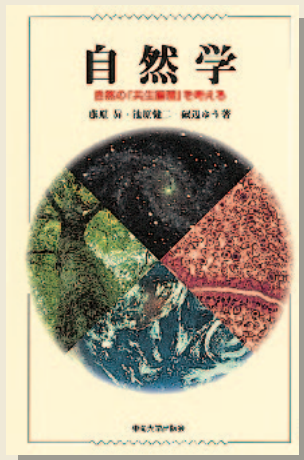
TERUYOSHI MATOBA
的場 輝佳

①生活環境学部:教授 附属図書館長
②食物栄養学科 食品化学

附属図書館長に再選され、あと1年間、大学の顔であり知性の要である図書館のお世話をさせていただきます。

さて、本を開いて静かに文字を追い、興味の赴くまま自由に時間を過ごせるのは学生時代の醍醐味です。一気に読むもよし。ページを止めて思索に耽るもよし。“読書のススメ”はスタッフからのメッセージ。専門的な学術書から教養を高める書物まで、奈良女の図書館が誇る五十万冊の蔵書には、皆さんの求める本が必ずあります。

こんな本を出しました



自然学 — 自然の「共生循環」を考える —

池原 健二
理学部 化学科 教授
機能化学講座



KENJI
IKEHARA

地球温暖化やオゾンホール拡大、環境ホルモンの蓄積など地球の共生循環系の破壊や異常に基づくのかもしれない地球規模の問題が提起され、地球の共生循環系を研究する必要があるとの話はよく聞かれる。その一環として本学に「共生科学研究センター」が平成13年の4月に設立された。本書は、なぜ、共生循環なのか、共生循環系がどのようにして地球上に形成されたのかなどについて深く考えることによって新しい研究手法や研究分野を開拓したいとの思いから、藤原昇（物理・情報科学）を中心に、池原健二（化学）、磯部ゆう（生物）の三名が本学の数名の教員との議論を経て書きあげたものである。また、生と死を通した宇宙の物質循環から生物個体の小さな時空スケールでの物質循環に至るまでの「共生循環の原理とメカニズム」を自然科学的に明らかにしようとした書物である。本書をきっかけに共生循環科学の新しい視点が打ち立てられることを願っている。

（「自然学—自然の「共生循環」を考える」藤原昇、池原健二、磯部ゆう著、2004年、3,200円+税）

新任教員紹介

①所属・職名 ②専攻分野 ③出身地・出身校(学部、学科等別)50音順

読み・考える楽しみ

NAOKO TAKAOKA 高岡 尚子

ジョルジュ・サンドの『愛の妖精』を読んで、涙を流したのは小学生の頃。長じてこのフランスの作家を研究対象にするようになり、心に響く内容はもとより、ひとつひとつの言葉を丁寧に扱うことで、作品世界の構造を読み解く楽しみを知りました。また、19世紀フランスでも稀有の存在であった女性作家の作品は、ジェンダーの視点からも多くの課題を提示します。学生の皆さんと共に、読み・考える楽しみを追求したいと考えています。

- ①文学部 言語文化学科言語情報学講座 助教授
- ②フランス文学
- ③大阪府
大阪府立茨木高等学校
大阪大学文学部文学科
大阪大学大学院文学研究科フランス文学専攻



原点回帰?

KOSHI SUZUKI 鈴木 康史

歴史を志して入学した大学でオリエンテーリングという競技と出会い、毎日山を走っていた私は、競技を続けようと体育学に転向。たどり着いた研究テーマは結局「スポーツ」「身体」と「哲学」「歴史」「文学」。何のことはない、未だに私は、かつて文学部で勉強もせずに運動していた自分の意味を問うているに過ぎないのかもしれない。大学時代とは自分のすべてが在った原点です。奈良女子大が皆さんの原点になりますように。

- ①文学部 人間行動科学科スポーツ科学講座 助教授
- ②身体論、思想史
- ③京都府
私立洛星高等学校
京都大学文学部史学科
京都教育大学大学院教育学研究科
筑波大学大学院体育科学研究所



数理解物理学の研究

TOMOYUKI ARAKAWA 荒川 知幸

現在はW代数やスーパーコンフォーマル代数の表現論を中心に、数理解物理学に關係した数学の研究をしています。数学としてはとても若い分野ですが、他のいろいろな分野と関係し、たいへん面白い研究対象です。わかっていないことも多く、解決すべきことがたくさんあります。伝統ある奈良女子大学数学教室の名に恥じないよう、さらに良い研究ができるよう精進したいと思います。どうぞよろしくお願致します。

- ①理学部 数学科現象解析学講座 助教授
- ②表現論、数理解物理学
- ③愛知県
愛知県立千種高等学校
京都大学理学部
名古屋大学理学部数学科博士前期課程
名古屋大学大学院多元数理科学研究科博士後期課程



はじめまして

YASUTAKA KATAOKA 片岡 靖隆

オリジナルな有機金属錯体を創り、それを利用して画期的な有機合成反応を世の中に提供すること。これが私の研究目標です。周期律表に載っている全ての金属が研究対象です。家族は、妻と幼稚園児の息子がひとり。これといった趣味は持っていませんが、休日に息子と自宅近くを小旅行し、最後に蕎麦屋で天ざるを食べながら、語り合うのが憩いのひとときとなっています。なお、阪神タイガースの熱狂的なファンです。

- ①理学部 化学科基幹化学講座 教授
- ②有機合成化学、有機金属化学
- ③愛媛県
大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎
京都大学工学部工業化学科
京都大学大学院工学研究科工業化学専攻



よろしくお願致します

IKUYO ICHI 市 育代

修士課程ではヒトの血清中脂肪酸組成と食生活の関連性について、博士課程では疾患モデル動物を用いて植物ステロールとその酸化物の生理機能と体内蓄積に関する研究を行ってまいりました。今年度から本学科が新しく管理栄養士養成学校となるにあたり、大学で学んだ管理栄養士としての知識と今まで得てきた研究に関する知識を生かして頑張りたいと思っております。どうぞ御指導、御鞭撻の程よろしくお願致します。

- ①生活環境学部 食品栄養学科 助手
- ②食品安全性学
- ③鹿児島県
鹿児島県立鶴丸高等学校
鹿児島女子大学生活科学部健康科学科
大阪府立大学生活科学研究科生活科学専攻
九州大学大学院生物資源環境科学府生物機能科学専攻



大学と社会の架け橋

MIKIO KAJI 鍛冶 幹雄

教育、研究に加え、社会連携が大学の新たな役割とされています。時代の流れと共に世の中の様々なシステムが変化していくのは当然のことです。しかし、大学がすべて会社のようになるのも、古めかしい化石となるのも、長い目で見れば社会の大きな損失です。「奈女大の歴史・環境・風土との調和を考え、営々と守るべきものは守り、勇敢に変えるべきものは変える。」そんな社会連携を目指して、大学と社会の架け橋になりたいと思います。

- ①全学共通(社会連携)教授
- ②社会連携、情報工学
- ③大阪府
大阪府立北野高等学校
京都大学理学部(数学)



ごあいさつ

RYO TAKEUCHI 竹内 亮

21世紀COEプログラムを担当する助手として、本年4月に着任しました。COEとは「Center of Excellence=卓越した研究拠点」の略で、プログラムを実施する各機関には、研究水準の向上と人材育成を目的として、国による重点的な支援が行われます。本学は「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」というプログラムを実施しており、古代日本の中心であった奈良の地の利を生かした研究を進めています。今後ともよろしくお願致します。

- ①全学共通(21世紀COE事業担当)助手
- ②日本古代史学
- ③兵庫県
甲陽学院高等学校
京都大学文学部(国史学専攻)
京都大学大学院文学研究科(日本史学専修)



「うちの…」

SHINGO TERAOKA 寺岡 伸悟

奈良女子大学に赴任して約1ヶ月、いまだに前任校を「うちの大学」と呼んでしまふ。また新しく住み始めた奈良の街を、同じ奈良県中部の出身でありながら、どこかまだ観光地気分であらゆる。この「うちの…」感覚は面白いもので、他人から聞かざれば反論したくなるし、かといって誉められるという悪い点を暴露したくなる。実はこうした場所への両義的な意識が、私の研究テーマでもある。さて、奈良女子大や「ならまち」をすんなり「うちの…」と呼べるように一日も早くになりたいものだ。

- ①文学部 国際社会文化学科比較歴史社会学講座 助教授
- ②地域社会学
- ③奈良県
大阪教育大学附属天王寺高等学校
京都大学文学部
同大学院文学研究科



奈良女と「私」

HIROAKI OBITANI 帯谷 博明

大学卒業以来、10年ぶりに生まれ故郷の奈良に戻ってきました。遠い記憶になりつつあるセンター試験をはじめ、本学には一言では語りきれない思い出があるのですが、前任校の非常勤を抱え、東京との往復生活に追われて、まだその感慨に浸る余裕がない毎日です。環境社会学の立場からみても、奈良には魅力的なフィールドが詰まっています。学生・院生の方や諸先生方との交流のなかで、どのような知的発見ができるのかとても楽しみです。

- ①文学部 国際社会文化学科地域環境学講座 講師
- ②環境社会学
- ③奈良県
奈良県立欽徳高等学校
大阪大学法文学部法学科
東北大学大学院文学研究科博士後期課程(社会学専攻)



後期分授業料免除について

経済的な理由により、授業料納付が困難で、かつ、学業優秀と認められる学生、又は、学費負担者の死亡、風水害等による被災などの特別な事情がある学生の授業料免除申請に対して、審査のうえ、授業料の全額又は半額を免除できる授業料免除の制度があります。

本年度の後期分授業料免除出願受付等は、次の日程で行います。

■出願書類交付期間:7月1日(金)~9月30日(金)

■出願期間:9月20日(火)~10月4日(火)

■出願書類交付・提出先:学生生活課奨学援助係

生活環境学部新入生合宿研修

今年度は、生活環境学部の食物栄養学科、生活健康学専攻及び住環境学専攻の新入生を対象にして、4月15日(金)、16日(土)に京都府立南少年自然の家(京都府南山城村)において実施しました。1日目は教員及び先輩との懇談で、2日目は送るうえでの心構えを話し合い、2日目はモクモク手づくりファームでウイナー作り教室に参加し、楽しく充実した1泊2日の合宿研修でした。



学生相談室から

●学生相談室は、あなたのマインドスペースです。

学業や進路の不安、日常生活でこまったこと、対人関係など、さまざまな心配事について一緒に考えましょう。

話をきいてもらうだけでも、落ち着くこともあります。

相談室は、あなたの話にじっくり耳を傾けます。そのことで解決の糸口が見つかるかもしれません。そのことで解決の糸口が見つかるかもしれません。

内容に応じて適切な人や機関を紹介することもできます。

●開室日及び開室時間

月曜日～金曜日 午前10時～午後5時

夏期休業中は月曜と木曜のみ開室

8月第3週と第4週、12月29日～1月3日、入学試験日(前期・後期)は閉室します。

上記以外で閉室する場合は、構内掲示板や相談室前にその旨を掲示することにより、お知らせします。

学生相談室の場所は学生会館3階です。

TEL.0742-20-3925 Eメール soudan@cc.nara-wu.ac.jp

●スタッフ

■相談受付

金 文子(月曜日・水曜日・金曜日)

岩井涼子(火曜日・木曜日)

■カウンセラー

皆藤靖子(臨床心理士)

竹村百代(臨床心理士)

■相談員

刃刀俊雄(教員)

柳沢 卓(教員)前期

肥山詠美子(教員)後期

森本恵子(教員)

無駄なことなんてない

- ①生活環境学部 食物栄養学科 助手
- ②栄養生化学
- ③大阪府
大阪府立大手前高等学校
大阪市立大学生活科学部食品栄養科学科
大阪市立大学大学院生活科学研究科前期博士課程



YOSHIMI KUBOTA 久保田 芳美

「大学生になるにあたっての抱負」を聴く機会があり、「やったことがないことをやりたい」と言う学生を多く見ました。自由を得る一方で多々起きるのは、自分は他の人と比べ要領が悪いと悩むことや、「これでいいのかな」と悩んだ末に決断を下すことなどです。悩んでいる時は苦しいでしょうが、私の知る限り、悩みにある程度向き合った人は、誰も悪い結果にはなっていません。これからの大学生活に無駄なことも、間違った決断もないのだということを言いたいです。

管理栄養士のリーダーを 育てたい

- ①生活環境学部 食物栄養学科 教授
- ②公衆栄養学、公衆衛生学
- ③大阪府
大阪府立天王寺高等学校
大阪市立大学家政学部食物科学科
大阪市立大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻



CHIGUSA DATE 伊達 ちぐさ

公衆栄養学は奈良女子大学で今年度より開始された管理栄養士養成教育で必修の専門科目です。公衆栄養学は、人間の健康の維持・増進と疾病予防に食生活が大きい役割を果たしていることを集団レベルで解明し、それに基づいた実践活動を伴います。公立大学医学部で約30年、私立大学生生活環境学部で3年この分野で経験を積みました。本学では、世界に通用する管理栄養士の育成に微力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願いたします。

食品と栄養の科学

- ①生活環境学部 食物栄養学科 助手
- ②微生物生産性食品多種類の物性
- ③大阪府
大阪府立三田丘高等学校
大阪市立大学生活科学部
大阪市立大学大学院生活科学研究科



YOKO NITTA 新田 陽子

いままでは、食品そのものを対象として、食品をおいしく食べるための基礎研究を行ってきました。今後は、食物と生体との相互作用を調べることで、食品をおいしく食べるための基礎研究をすすめていきたいと思っています。日常の会話、研究姿勢などから、学生を刺激する存在になれたらと思っています。大学の発展につながるよう、研究・教育ともに努めますので、ご指示のほどよろしくお願いたします。

奈良の地に想う事

- ①生活環境学部 人間環境学科学位環境学講座 助教授
- ②建築防災、耐震構造
- ③大阪府
大阪府立豊中高等学校
大阪大学工学部建築工学科
大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻



YOICHI MUKAI 向井 洋一

このたび奈良女子大学のキャンパスに越してきて、まだ研究室に運び込んだ荷物も片付かない状態なのですが、講義の合間など時間がある時には、つい近くの町並み散歩に出歩きたい衝動にかられています。建築物に取組むものにとって、多くの伝統的建築物を間近に控えた奈良の地で教育・研究に携われることは大変な幸運であり、古都の息吹を肌感じながら、歴史と地域に根ざした建築学的課題に取組んで行きたいと考えております。

人間と環境との関わり の長い歩みについて

- ①大学院人間文化研究科 比較文化学専攻文化史論講座 助教授
- ②考古学
- ③東京都
東京都立西高校
明治大学文学部史学地理学考古学専攻
京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程・博士後期課程



ATSUKO MIYAJI 宮路 淳子

人類が誕生して以来、食料獲得・食料生産の歴史は長く、固有の文化・社会の形成と不可分に発展してきました。私の専門は環境考古学という分野で、遺跡に残る人間と環境との関わりを示す試料から、その遺跡を遺した人々の日々の営みや経済基盤を追究し、社会構造の変化との関わりを明らかにしていく研究をしています。

平成17年度就職活動支援行事の日程

企業業績の回復に伴う雇用の拡大により、就職活動を行う学生にとって明るい兆しが窺えるものの、企業の採用手法は年々多様化するとともに人物重視の厳選採用が依然として続いています。

このような環境の中、就職支援室では学部1・2回生を対象としたキャリア開発プログラムから就職活動を目前に控えた学部3回生及び大学院博士前期課程1回生を対象の就職対策プログラムの他、今年度から内定を得た学生に対してフォローアッププログラムを加え、様々な機会を学生に提供し支援していきます。

なお、平成17年度就職支援計画表による支援内容は変更する場合があります。



◆教育・公務員対策講座 (学部2・3・4回生 大学院博士前期課程1・2回生対象)

教員 対象	平成17年6月上旬	模擬面接・グループディスカッション指導	○志望動機・自己PRの指導等
	平成17年6月上旬	教員試験対策講座Ⅰ	○採用試験のスケジュールと手法
	平成17年6月下旬	教員試験対策講座Ⅱ	○筆記・実技・面接試験の種類と対策
	平成17年11月下旬	教員試験合格者体験報告会(小・中・高校別)	○先輩からのメッセージ
公務員 対象	平成17年6月上旬	公務員試験対策講座Ⅰ	○公務員の仕事とは、やりがい
	平成17年6月上旬	模擬面接・グループディスカッション指導	○志望動機・自己PRの指導等
	平成17年7月上旬	公務員試験対策講座Ⅱ	○公務員試験の現状と内容 試験対策について
	平成17年8月上旬	公務員試験対策講座夏期集中講座「10日間・1日3コマ」	○憲法、民法、行政法、数的処理、経済原論
	平成17年11月下旬	公務員試験合格者体験報告会(国家・地方)	○先輩からのメッセージ

◆就職対策プログラム (学部3回生 大学院博士前期課程1回生対象)

平成17年6月中旬	就職活動ステップ講座Ⅰ	○今年度の現状と来年度の展望 企業が求める人材とは
平成17年6月下旬	業界・企業研究講座	○業界研究・企業研究
平成17年7月上旬	就職活動ステップ講座Ⅱ	○夏休みの過ごし方 就職サイト活用術
平成17年7月上旬	職務適性検査	○自己分析職業適性
平成17年10月中旬	就職活動ステップ講座Ⅲ	○就職活動の進め方
平成17年10月中旬	大学院生向け就職ガイダンス	○大学院生の就職活動環境・採用環境
平成17年10月下旬	筆記試験対策講座	○試験内容に共通する傾向・解法についての解説
平成17年11月上旬	自己分析対策講座	○自己分析・自己PR 履歴書の作成
平成17年11月中旬(3日間)	業界研究対策講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	○業界別研究 金融・商社・流通・メーカー等
平成17年11月下旬	エントリーシート対策講座	○エントリーシートとは 具体例と対策・文章表現力
平成17年12月上旬	内定者体験報告会	○各学部から内定を得た先輩方からのメッセージ
平成17年12月上旬(2日間)	エントリーシート対策テスト	
平成17年12月中旬	面接試験対策講座	○自己表現力の向上・面接者の評価
平成17年12月中旬	会社訪問・面接時のマナー講座	○ビジネスマナーの基本 身だしなみ・電話のかけ方
平成18年2月中旬(2日間)	個別面接・グループディスカッション指導	○業界・職種別指導 志望動機・自己PRのチェック

◆キャリア開発プログラム (学部1・2回生対象)

平成17年6月下旬	キャリアデザインⅠ	○大学生活の過ごし方
平成17年7月上旬	キャリアデザインⅡ	○自分らしい生き方・職業選び
平成17年10月下旬	キャリアデザインⅢ	○人生と進路選択
平成17年11月中旬	キャリアデザインⅣ	○社会人とは
平成17年11月下旬	キャリアデザインⅤ	○適職診断テスト

◆業界・業種別体験報告会 (学部3回生・大学院博士前期課程1回生対象)

平成17年12月中旬	○企業で活躍する先輩との対談 ○個々の能力・適性にあった職種・業種の選択方法とは
------------	---

◆関東地区での就職希望者のための就職懇談会 (学部3回生・大学院博士前期課程1回生対象)

平成18年2月 (佐保会東京支部との共催)	○先輩からの業種別・職種別体験報告会と東京近郊での生活について
--------------------------	---------------------------------

◆フォローアッププログラム (学部4回生・大学院博士前期課程2回生対象)

平成17年10月・11月	○社会人となる前の心構え ○ビジネスマナーについて
--------------	------------------------------